

第 1 学年竹組 算数科『はるがきた』略案

指導者 中村 寛司 佐々木智子

1. 日時 3月 8日(木) 2校時(9:20~10:05)
2. ねらい 絵を見て場面を把握し問題文を作る活動を通して、たし算やひき算の習熟を図る。
3. 本時の実際(1/2)

時 間	学 習 活 動 と 児 童 の 動 き	教 師 の 支 援 及 び 評 価 (◎評価)	セン ター の 先 生 の 支 援
9:20	1. 絵を見てどんなものがいくつあるか考える。	・赤と黄色のチューリップがあるなど後の問題文作りにつながるように確認をする。	・挨拶と自己紹介をする。
9:25	2. 本時のめあてを確認する。 <div>えを見て、たしざんやひきざんの もんだい文をつくろう</div>		
9:27	3. たし算やひき算になる言葉を確認する。	・問題文作りの際に参考にできるよう板書を工夫する。	・児童の発言から出なかった たし算やひき算になる言葉を補足する。
9:32	4. コース別に問題文作りに取り組む。	・あらかじめ習熟度別に3つにコース分けをしておく。 ☆さくらコース 【7人程度】 ・つまずきが見られる児童には問題文を作る際のヒントになるように数字とたし算、ひき算になる言葉が空欄になっているシートを準備する。	☆たんぼぼコース 【10人程度】 ・児童が作った問題を見て、必要な数字や適切な言葉がきちんと使われているかチェックする。
9:50	5. 作った問題文を発表する。	☆なの花コース 【10人程度】 ・机間巡視をしながら躓きが見られる児童の支援に当たる。 ◎場面の絵を見てたし算やひき算になる問題文をつくることができる。	・問題を見せに来た児童に対して賞賛したり、助言を与えたりする。 ・求差や求残などいろいろな問題文を考えるよう促す。 ◎場面の絵を見て、正しく問題づくりができる。
9:58	6. ノートに本時の振り返りをし、発表する。	・がんばりが認められる子どもの振り返りを選び、発表の指名をする。	・感想や助言を話す。